

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
27	川崎市立東小倉小学校	安藤 勉

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>東小倉という町に愛着をもち、誰もが明日も登校したくなる学校の創造。</p> <p>1. 自ら学び行動する子 2. 心豊かな明るい子 3. 進んで働く子 4. 健康でたくましい子</p> <p>学校経営の目標 ○教職員の組織的協力による教育活動 ○魅力的な教育課程の編成 ○他と意欲的にかかわり合う力の育成 ○自己肯定感と規範意識の育成 ○地域の教育力を生かした教育活動の実現</p>	<p>1ー①キャリア教育を軸に「進んで伝える、思いを受け止め、豊かにかかわり合う」資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントに努める。 1ー②「聴いて考えてつなげる」授業を継続して行い、その基盤となる対話の力を育てる。 1ー③「キャリア在り方生き方教育」市教育委員会研究推進校 2ー①学校スタンダードについて教職員が共通認識をもちながら児童指導を行い児童が自ら考える活動を重視することで規範意識の育成を図る。 2ー②自分や人のよき、違いを互いに認め合い大切にしようとする気持ちを育てる。 2ー③情報モラル・道徳教育の推進 3ー①児童会活動をはじめ、学級での係活動や当番活動をする喜びを感じさせ、自主的・自発的な行動力を養う。 3ー②児童会や縦割り班活動を計画的に行い、そのねらいに向け有効に生かされるようにする。 3ー③委員会で児童主体の計画を実現していく。 4ー①自分の身体に関心をもち、健康な体づくりができるようにする。 4ー②学校生活全般において、児童の体力の向上へとつながるきっかけを作り、体を動かすことの楽しさや喜びをできるようにする。 4ー③健康教育・防災教育の充実</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
<p>1. 自ら学び行動する子</p> <p>・学ぶ意欲と思考力・判断力</p> <p>1</p> <p>・表現力の育成</p> <p>・自己評価力の育成</p>	<p>①キャリア発達を支える道徳教育のグランドデザイン・各学年のグランドデザインを作成し、児童の実態に沿った効果的な教育活動を行う。 ②全教科を通じて、「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を基盤とした「聴いて考えてつなげる」授業を行う。 ③各教科等の資質・能力を育成する過程で児童のキャリア発達の実現にも資するような授業づくりに努める。</p>	<p>①キャリア発達を支える ○子供たちの姿の価値づけが明確になった。 ▲教職員の「キャリア」の捉え方のスレがあった。(捉え方を共有する時間が必要) ▲縦の系統性の意識が弱いのではないか。 ▲キャリア発達の見通しの弱さを感じた。 ▲グランドデザイン・SDGsの意識を学年でより高めていくことができればよかった。 ②聴く・話す ○自分の感じ方表現する言葉指導ができた。 ○「話す・聴く」が核になっていることを児童が意識している。 ○「話すこと」の手立てが充実していた。 ▲「聴くこと」の手立て・指導について考えていく必要がある。 ③キャリア発達に向けた授業づくり ▲地域のボランティアとの関わり方に課題が残る。 ▲各学年でどのような取組をしているのかがイメージにくい。</p>	<p>・縦の系統性について、推進委員会で共有する。 ・コミュニティスクールでの話し合いを生かしていく。 ・目指すものは何か…言葉を精選する必要がある。</p>
<p>2. 心豊かな明るい子</p> <p>・規範意識の向上</p> <p>2</p> <p>・自他を大切にす心情や態度の育成</p>	<p>①児童に自ら考えさせることを繰り返すことで相手の気持ちや状況を考え、判断して行動できる力を育てていく。 ②各教科や様々な活動を通し、相手を思いやる言葉かけや行動を認め価値づけていく。 ③家庭との共通理解を図るために、保護者への働きかけを継続的に推進していく。</p>	<p>①規範意識の育成 ○指導に迷ったときに共通確認できる基準があるのは良い。 ○クラス掲示があり、その都度めあてや振り返りを記入するクラスがあり良かった。 ▲スタンダードの項目が増えすぎていくと児童や教師にも難しいのではないか。 ▲内容が多分、形だけになってしまっていないか、指導を揃えるために「その意味」を共通認識したい。項目が多すぎて、把握しきれない。毎回確認しなくてはならない。精選が必要ではないか。 ②自分や人のよき、違いを認め合う ○話し合いの中で大切にできている。 ○普段の「話す聴く」活動は、相手を大切にすることを目標としている。 ○「明日も登校したくなる」「誰一人取り残さない」という言葉が児童に浸透している。 ▲教師の前や授業中だと丁寧だが、普段の生活では、大切にできていないことがある。(言葉遣いや名前の呼び捨て) ③情報モラル・道徳教育推進 ○児童への指導は、基本的に学年、学級で行えた。懇談会などで話題にするというよりはなかった。 ▲児童や家庭に周知することは可能。時期や回数はいくらかが妥当なのだろうか。</p>	<p>・ルールを守れていないと指導するのではなく、なぜ守るのかを児童に考えさせる。 ・生活目標の中にスタンダードと関連付けたものを入れるなどして確認、振り返りしやすくする。 ・言葉の指導だけでなく、環境の工夫(廊下の障害物など)で児童に気づかせるものがあるといい。 ・全校でのGIGAの使い方から、情報モラルまでを扱う時間を作る(朝会などの利用)</p>
<p>3. 進んで働く子</p> <p>・特別活動の充実</p> <p>3</p> <p>・意欲的に協働する力の育成</p>	<p>①児童会スローガンをもとに各行事で学年・学級の目指す児童の姿を具体化していく。 ②教師主導ではなく、児童の主体的な活動を推進するために学びの場を確保する。 ③すべての教育活動を通してSDGsに視点を当て、児童が自分事として受け止め実践できるよう、全職員が一体となり協働する力を価値づけていく。</p>	<p>①めざす児童の姿の具現化 ○学年に合わせて、学級会や実行委員会などを通して活動ができた。 ○スローガンの「みんなの芽を育てよう」を意識して、児童会活動を進められた。 ○教師の見通しを、子供にも共有することができた。 ▲教師の見通しが足りなかった。 ▲今までの積み重ねを残すようにしないといけない。記録や資料に残す等。 ▲教師の分担を明確にする。前回の担当に聞く。引き継ぎをしっかりと行う。 ②児童の主体的な活動 ○児童からの発信で動く活動をめざした。 ○連合音楽会などの行事の経験、失敗の経験が糧となっている。 ▲活動の中でどこを児童主体にするかが共通理解できていない。 ③SDGsへの取り組み ○ふれあい班活動の中でさらに意識していけるとよいのではないか。 ▲SDGsを意識することは難しかったところもある。「持続可能な」意識をもって、教師と児童が活動できるとよい。</p>	<p>・自主的、自発的な活動ができるよう、教師が見通しをもっておくことが大切である。 ・教師は担当している学年だけではなく、学校全体を見ていく必要がある。教師全体で共通理解のもと、様々な教育活動に取り組んでいくようにする。 ・学校生活の中で児童に成功体験が増えていくよう努め、自己肯定感を高めていくような取組をしていく。</p>
<p>4. 健康でたくましい子</p> <p>・教科体育の充実と魅力的な体育活動の充実</p> <p>4</p> <p>・健康教育・防災教育の充実</p>	<p>①養護教諭、栄養教諭と協力して、学年や実態に応じて規則的な生活習慣や病気のけがの防止について指導し、家庭と連携を図る。 ②キラキラタイムの活動を中心として児童が楽しみながら継続的に運動に取り組めるようにする。 ③防災安全マニュアル全教職員で共通理解を図り、いざという時に迅速にかつ的確に行動できるようにする。また、通学路の交通安全指導を行う。</p>	<p>①養護教諭・栄養教諭・家庭との連携 ○家庭科や保健の授業等で、日常を課題として取り組むことができた。 ○食育の授業を行い、学習に使ったワークシートに保護者のコメントをもらうことで家庭との連携を図ることができた。 ▲担任だけで伝えにくい内容(健康や体について等)を養護教諭と連携してできるとよい。 ②キラキラタイムの取り組み ○キラキラタイムの計画的な実施によって、運動を楽しむ機会が増え、遊びの幅が広がった。 ▲成果が目に見える形に現れにくいので今後どうしていくか。 ③防災・安全教育 ○予告なしの訓練によって、教師も児童も課題が見い出せたので実施してよかった。 ▲実際の災害を想定した訓練の形になっているのか疑問を感じる場所がある。</p>	<p>・年度初めに、栄養教諭、養護教諭と食育や健康に関する授業の年間計画を立て、確実に行えるようにする。 ・体力UP委員会が発足する。キラキラタイムについても、担当教員と委員会児童だけに委ねず、ねらいを教師(D部会)としてしっかり確認していく。また、キラキラタイムに全校児童が参加できる体制を作る。(例えば、学年でなく縦割りで実施日を決める等) ・教員の不審者への対応研修を実施検討する。 休み時間の予告なし訓練・曜日や日時を変えた訓練など、児童も教師もどんな時でも的確に対応できる力を身につけられるような訓練を検討していく。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>(学校運営協議会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が地域へ自分たちに何ができるのかを考え、活動に移そうとしている姿勢はすばらしい。町全体を盛り上げていこうとする児童の姿に地域も応援をしていきたい。 ・保護者アンケートを見ると多くの発問について肯定的な意見が得られているように感じる。また、学校経営の重点としている、「話す・聴く」や「児童の主体的な活動」についても、肯定的な評価を得られているのではないだろうか。 ・児童アンケートをしてみるとの学校を楽しんでいる様子が窺える。また、学校生活を肯定的に受け取っている児童の様子がわかる。しかしながら、昨年度に引き続き「心配事を先生に相談できますか」という質問に対しては他の質問より肯定的な回答が少なかったことが気にかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「誰もが明日も登校したくなる学校」となるための手立てを工夫し、「あいすのみ」の標語のもと子供たちの安心できる環境づくりを行った。 ○コロナの5類への移行により、学校の教育活動もコロナ禍前の形に戻ってきた。子供たちの安心・安全を最優先する中で、いろいろな実体験を積めるようになってきた。 ○PTAや地域の方と連携し、ボランティアさんの支援を受けて、本年度も他校では見られないような教育活動を展開することができた。 ○学校運営協議会では、「地域をオモシロくする～子供起点で地域貢献、地域起点で学びへの貢献～」をテーマに、地域と共に取り組める活動のアイデアを出し合い検討してきた。第2回・第3回の会議には6年生児童が6名参加し、お世話になっている地域へ自分たちに何ができるのかを考えた。 ○研究推進校として培ってきた経験を、次年度以降に継承し、さらに発展できるようにしていく。 ○保護者から高い評価をいただいている「話す・聴く」や「児童の主体的な活動」については、引き続き力を入れて取り組んでいく。